

## プレカット工場視察

私は建築士さんと勉強会を毎月しています。今回は五名でプレカット工場の視察に出かけました。参加しているメンバーの目的は現在の工業化された住宅作りの現場を見る事でした。

実は建築士さんとプレカット工場の視察に行ったのは今回が初めてでは有りません。8年程前に住宅に関する本を出版している編集長から『建築士さんが四～五ページを書くのに協力してくれないか』と頼まれて行った事がありました。その時の話の印象と今回の印象は全く違う物が有りました。それは凄く闊達な質疑応答が有ったからです。現場で取り付ける金具の話から釘の話まで実に細かい話では有りますが、本当にお施主様の目線に立った話でした。私の知らない話が70%位有りましたがお互い為になる話だったと思います。

ところで使用木材について凄く為に気になる話が二つ有りました。一つ目は構造材の梁に使うベイマツの事です。もう一つはEW（エンジニアウッド・構造用集成材）の話でした。

最初の話は人工乾燥材（含水率10%前後）のベイマツと天然乾燥材（含水率20%位）のベイマツの性能比較です。

人工乾燥材の物と天然乾燥材の物を見ると前者は表面割れしていません。後者は表面割れが有ります。一見割れの為に前者が良く見えるのですが、実は後者の方が良いのだと言われていました。その理由は釘の利き方が違います。人工乾燥材に五寸釘を打つ時最初は釘の入り方はまずまずなのに一旦入りかけるとスムーズ過ぎる程入ってしまい釘のきき方が甘いのではないかと思います。それに対して天然乾燥材は釘が程よい力で入りカチット止まりますと言われていました。人工乾燥技術は強制的に水を木から抜きます。そうすると木に本来ある脂分まで抜かれてしまい、木自身が外面は普通に見えているのですが中は少しスポンジ状になっているのだと言われていました。予断では有りますが私も天然乾燥材をお客様に勧めているので正しいと思います。

次の話は輸入されているEW（エンジニアウッド・構造用集成材）の柱と国産無垢の柱の使われている比率です。現在使用されている柱の内80%以上がEWだと言うことなのです。何故日本に余っているスギ・ヒノキの構造材を使わないのか大変不思議に思いました。スギ・ヒノキは日本国内に大量に有り余っているのです。花粉症の原因にも繋がっているのです。木材資源が無いのなら輸入しなければいけません大量に有り余っているのに可笑しな事だと思います。



日本は京都議定書で一定のCO2削減義務を負っています。それには国内の森林が吸収する数値がはっきりと明記されています。しかし現時点では全くクリアされていません。クリアする為の具体的政策も提案されていません。

京都議定書に唄われているCO2削減は日本の林業の発展意外に方法は有りません。その為になにが必要かと言う視点が全く無く、ただコスト優先の論理でEW（エンジニアウッド）を使うことに疑問を禁じえなかった訪問でした。

日本人は不思議な人種です。住まい作りの木材だけでなく、食べる物も日本の2000年の伝統文化の固有のコメがあるにも拘わらずそれを食べないでわざわざ高い小麦を輸入して食べているのです。こういう事をこれからも続けるのかそれとも変えるのかが問われていると思います。



# 今年の税制改正論議は本当に情報公開されているのか

本年自民党は本格的な税制改正を行いますと、各政治家の発言が相次いでいます。さらに本年四月から法改正された後期高齢者の保険制度の改正で現在国民全体が混乱しています。そして皆様去年の六月の建築基準法の改正の事はお忘れではないですね。法律自身に両方とも問題があったのかそれとも国民一人一人にわかり易い説明が大変不足していた事が原因なのか解りませんが、国民が怒りを感じているのは事実です。

確かに建築基準法改正は過去に耐震偽装問題が有りましたし、今年隣の中国で四川大地震が勃発し地震対策の為の正しい政策であったのでしょうか。しかし正しい政策で有っても正しく法律を施行してくれなかったら世の中が混乱するのは当たり前ではないでしょうか。後期高齢者の保険の改正も基準法改正と全く同じ過ち（**法律の施行に付き国民に周知徹底された説明が不足している**）を犯しているように感じて仕方が無いのですが。

昔アメリカのケネディ大統領が言った名言に『アメリカ市民のみなさん、アメリカの国があなたに何をしてくれるかではなく、あなた方自身が、アメリカに何ができるかを考えてください。』が有ります。これをただ単に日本流に直せば『日本の市民のみなさん、日本の国があなたに何をしてくれるのではなく、あなた自身が日本に何ができるか考えて下さい。』になりますが、**日本に何ができるか**という言葉の意味は単に国の政策に従うだけでなく、又不平不満をただ単に言うのではなく、もっと深く考え行動することが求められているのではと思っています。

国民は選挙で政治家を選び我々国民全体の生活を委ねているのです。今回の税制改正を二つの失敗を糧に日本人全体の暮らしが豊かになる税制改正になるようオープンな議論をして頂きたいと願います。

自民党の税制調査会で進められている抜本的な税制改正プランの概略は既に出来上がっていると聞いています。私はそのプランを自民党の党内手続きと閣議決定だけで国会に提出し衆議院の2/3の多数で決められないかを凄く危惧します。

## 四号特例問題と福田ビジョン

国土交通省の役人が考えた四号特例の廃止は先延ばしになると言われていましたが、ここに来て実施するのではないかと言う噂が有ると聞いています。現在四号特例を廃止すると困るのは国民全体です。四号物に構造計算を義務づけた場合スギ・ヒノキの無垢の構造材が使われなくなります。スギ・ヒノキを使う意味を国土交通省の役人は理解出来ていません。

スギ・ヒノキを使う意味は伐採期に来ているスギ・ヒノキの無垢を使いその後には自然に近い森林で木を育てる森林経営をすることが日本人全体の得になるのです。岩手宮城内陸地震が起きた現場を新聞・テレビで見たとき崩落した森林の倒された木の根が非常に浅い事に私は気づきました。根が浅いのは倒された主な木が針葉樹の証拠なのです。もし根が深く育つ広葉樹が自然に近い形で繁茂していたら大きい地震が来て森林が崩落してもあれだけ酷い崩落は無かったと思います。

政治家は伐採期に来ているスギ・ヒノキの無垢を使い自然に近い森林にしようではないかと国民に話を是非して欲しいと私は思いますが、考えすぎでしょうか。[\(スギ・ヒノキの使用について別紙アンケートを用意しています。\)](#)

四号特例が廃止されれば輸入されているEW（エンジニアウッド）しか使われないようになるように思います。EWはヤング係数を調べると殆ど個体差が非常に小さく構造計算が可能だと言えます。しかし無垢のスギ・ヒノキは個体差が凄く大きいです。産地・目合い・樹齢等の違いが大きな個体差を生むのです。個体差の大きい物を使った住宅で構造計算は出来ないと言われていました。

福田首相が低炭素社会を目指す指針所謂福田ビジョンを打ち立てました。低炭素社会実現の為にはスギ・ヒノキの無垢の構造材を使った住まい作りこそEWを使った住まい作りより数段勝っています。EWは石油系の糊・電気そして船の燃料等々の化石燃料を大量に消費しそしてCO2排出量も凄く多いと思います。スギ・ヒノキの無垢の構造材に使う場合はEWと単純比較ではおそらくCO2排出量は五分の一から十分の一位だと思います。**(\*注意スギ・ヒノキをエンジニアウッドとして使おうと言う動きが有ります。この方法はCO2の大幅な削減は実現出来ません。糊・電気等の化石燃料を多く消費しCO2削減は出来ません。)**

福田ビジョンの全体像は正しいと思います。後は如何に官僚主導ではなく、政治主導で政策を立案し実行してくれるかにかかっていると思います。四号特例の廃止と言う事を申し出た国土交通省の役人に間違った政策なので引っ込めさせて二度と間違わないようにして頂きたいと思います。

## 本当の族議員が頑張ってくれる世の中が来て欲しい。

マスコミ等の報道でよく族議員に問題が多いと報道がありますが、政治家は全て族議員なのです。政治家になる為に歩いて来た道が有ります。出身先によって族議員の分類が変わるのです。

そこで調べました族議員って一体幾つ有るのかなど、調べた結果は、(大蔵族・建設族・道路族・農林族・郵政族・文教族・社労族・国防族/防衛族・商工族・外交族) 10の族議員が有りました。

族議員は与党、野党問わずいるのです。族議員がいるから政治があるのです。総理大臣はその族議員を束ねて良い政策を立案し国民に幸せを与えるのが仕事だと解りました。

私は昨今の建築基準法の問題、道路財源の暫定税率の問題、後期高齢者の保険制度の問題等を見たとき族議員の方々の勉強不足が凄く大きな影響を及ぼしているように思います。

昔の族議員と今の族議員を見たとき良いか悪いかを別にして、はっきりと勉強不足を思わせる事が有ります。それはカリスマ的な重しのある政治家が大変少ないと思うからです。Aと言う代議士がいます。財務大臣とか防衛庁長官をしています。任期は1年から長くて2年迄です。これ位の経験年数で国民から信頼されるカリスマ的な重しのある族議員になれるでしょうか。私は無理だと思います。

ところで良い住まい作りを考えてくれる政治家は一体何族なのでしょう。建設族の要素も必要だと思いますし農林族の要素も必要です。商工族の要素も必要です。文教族の要素も必要です。大蔵族の要素も必要ですよね。数えたら最低五つの族議員に跨っていますね。五つの要素の族議員に該当する政治家は今の日本にはいないのでは無いかと思います。

**族議員を調べて解ったのは、良い住まいを作れる政治家は凄い勉強が必要だと思いました。**

## グローバルからローカル経済へ

ある辛口の経済評論家はグローバル経済とはアメリカの借金です。終わりの始まりが今起こっているのです。その第一歩がサブプライムローン問題だと言うのです。アメリカの借金のお陰で世界は回っています。しかし何時か破綻する時は必ず来ますと言うのです。その時こそ経済体制が大きく変わるのだと言っていました。

その時ローカル経済こそがこれからのスタンダードになると言われていました。つまり外需頼みの日本の経済運営を内需主導型に変える必要があると言われているのです。【ローカル経済＝内需主導型経済】

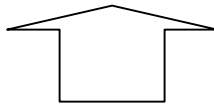
日本に色んな産業が有りますが、最も早くローカル経済に対応出来る産業は住まい作りだと思います。昔私の知っているアメリカ人が日本にお見えになったとき、新幹線で日本の風景を見て最初に言った言葉を思い出します。日本には将来性のあるマーケットが現に有る。それは住宅だと言うのです。

今の日本の住宅環境は決して良いとは言えません。例えば建売り住宅の場合夫婦喧嘩の音が隣に聞こえる様な住まいは良いとは言えません。(友人の家に遊びに行ったときの経験です。)

福田ビジョンに唄われている200年住宅の考え方は素晴らしいと思います。この政策を実行していく必要は有ると思います。その中身について、建築士の方々にも賛否両論が有るのは知っているつもりです。しかし小異を残して大同につく考えでは有りませんが、少しでも国民全体の幸せが実現することこそ正しいのでは有りませんか。

福田ビジョンの考え方はグローバル経済からローカル経済へ移行したとき対応出来る一つの方法だと思います。

私は自民党支持では有りませんが福田総理は福田ビジョンとして自分の考え方を政治家として正々堂々述べられた事に凄く敬意を払います。政治家は自ら襟を正し国民に話しをして我々を引っ張って行って欲しいと思います。



**FAX番号072-422-8577**

アンケート

Q 1、住宅を設計する時、使用する構造材にも目配りしている。

はい

いいえ

Q 2、 Q 1 ではいとお答えした方に。

国産の木材ヒノキ・スギを使う方がEW(エンジニアウッド)より良い。

はい

いいえ

御社名	
ご担当者名	
電話番号	
FAX番号	

株式会社 服部商店  
大阪府岸和田市木材町16-1  
TEL 072-438-0173  
FAX 072-422-8577  
担当 服部雅章